

寄贈品コーナー  
平塚の空襲と戦災  
2003年 6月20日～7月30日

海軍技術研究所化学研究部の六番一号爆弾 (60 匁 (kg))



六番一号爆弾の弾尾・弾体・弾頭

昭和5年(1930年)、海軍は、平塚の海軍火薬廠用地の一部割愛を受け、海軍技術研究所化学研究部平塚出張所を開設します。昭和9年この出張所は化学研究部に昇格し本格的な特薬の製造実験工場となります。特薬というのは、いわゆる毒ガスのことで一号から四号の特薬が製造実験されます。このうち、三号特薬甲といわれたイペリットは、化学研究部六科で製造され、七科で化兵器とされました。その化兵器には、砲弾、爆弾、迫撃砲弾などがあり、陸用爆弾として製造された六番一号爆弾は、全体の重量が60匁、イペリット(17匁)を充填した特薬缶を装てんしたものです。この特薬缶には円錐形(弾尾)のものと中心管のある円筒形(弾体)の二重套管のものとの二つに分かれ、それぞれが鋼材により被われていました。この六番一号用爆弾は、資料によれば昭和19年には4,200発、同20年には600発がそれぞれ組み立てられています。